

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172901308), 法人名 (有限会社 旭川ケアサービス夢), 事業所名 (グループホーム夢 西ユニット), 所在地 (旭川市春光台4条9丁目4-3), 自己評価作成日 (H28年10月), 評価結果市町村受理日 (平成28年11月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1)住宅地や福祉施設が隣接、閑静で自然豊かな場所に立地している。
2)共有スペースは、吹き抜けで自然の光が差し込み、開放感のある場所となっており、
3)入居者様は、思い思いの場所でゆったりと過ごしている。日常的に近隣の公園に散歩に出掛けたり、食事前の嚙下体操やカラオケ機械も導入しカラオケを楽しむ等のレクリエーションを日課とし、毎日楽しく過ごせるよう工夫している。
4)事業所には看護師が勤務し、医療機関との連携も図られ、入居者様の健康を支えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172901308-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年11月9日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境：自然に恵まれた春光台に在って、公園等も整備された福祉村に隣接する。また近隣は閑静な住宅街。ホームの介護機能や採光がよく、2ユニットが連携した取り組みが可能な環境を活かしている。
2)職員の態度・姿勢：利用者個々の既往の生活や心身の状況の理解に努め、これを伝えて、家族との信頼関係を大切にしたい真摯な対応に努めている。
3)家族・利用者の満足：家族の訪問頻度に応じて、職員と情報交換や細かな連絡を図り、職員の利用者への理解に努める丁寧な個別対応に満足している。
4)運営推進会議の開催状況：会議参加者は地域・民生委員・行政・家族・利用者を含み定例に開催。運営状況の詳細を説明して参会者の意見を運営に反映している。また議事録を家族に送り、理解と周知に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を検討し詰所、ホールに掲示し全職員で共有している。	職員は地域の方に利用者がホームの「夢の人」と馴染める関係や自然豊かな環境を生かした生活(散歩・花や野菜作り)を楽しむこと等を実践理念として共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事、夏祭りなど町内の行事にも参加している。	近隣の住宅は比較的に新しいが、町内会を軸に、季節に応じた行事や恒例の祭り、隣接の療育園の公園等を散策するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の方には、施設案内や系列事業所と連携を取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回推進会議を開催しており、市担当者や町内会の方を交えて、ホームの取り組みや日常生活の様子等を報告し意見を頂いている。	会議は定例時に行政・民生委員・地域関係者・家族・利用者を交えて運営の詳細を報告、それぞれの意見・情報を交換して運営に反映するとともに、議事録を家族に送り、運営の理解と周知に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者ともめに連絡を取り合うようにしている。実状を把握して頂き、協力関係を築いている。	運営推進会議での情報交換の他、定例の業務報告や包括支援センター等の研修等の機会を生かした運営に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていない。事故防止の為、センサーを設置している。転倒の恐れのある方は、センサーマットを使用し身体拘束せず見守りを重視している。	職員は拘束の意義を正しく理解しており、利用者の安心と安全を第一に、家族の理解や承諾と共に望ましいケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し正しい知識を学んでいる。日々の生活の中で職員間で言葉かけ、ケアの方法についてなど話し合い、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる。研修会などの機会には積極的に参加するようにし職員全員が確認できるよう資料の綴じられたファイルが作成されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学をして頂き、職員体制、料金等について説明している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時には、日々の暮らしを細かく伝え、ご家族から頂いた意見や言葉、要望は記録に残し職員全員が情報を共有しケアに反映させている。	家族が来訪時の面談を大切にし、日常生活ぶりを交換してその意向を把握して活かしている。また、定例の連絡事項や運営推進会議議事録を送って運営状況の周知に努めている。	家族とのホーム運営上の情報、特に利用者個々の状況等の周知に努めているが、なお、細部の周知に工夫されて、一層の高い質的成果を期待したい。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の実施や普段の業務、ミーティングを通し、職員の意見等を聞き、運営に反映するよう努めている。	定例会議での利用者中心の専門的課題に留意して運営に活かし、また職員相互の申し送りの徹底と記録に留め、漏れのない支援に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得サポートやシフト調整を行い、就業しやすい環境作りを行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など、できるだけ多く参加できるように促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修や系列施設内で行っている転倒転落会議に参加し情報交換を行い、交流を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族様の思いや不安な事、要望等を聞き、安心して過ごせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活歴、心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごして行きたいのかを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを中心に相談を受け付けているが職員内で話し合う機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で見守っていく援助を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし外出や外泊等も続けられるような環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、自宅など家族の協力を得ながら訪問できるようにしている。又、携帯電話を所持している方もいて家族や知人への連絡なども支援している。	家族との協力関係に努め、家族との外出等の機会やなじみの人との交歓を進めている。また四季に応じた見学や祭りへの参加などで馴染の継続的支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者様同士がうまく関われるように努めている。又、入居者様同士の関係も把握し座席等を配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても病院に様子を見に行き、ご家族から経過を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わり、ご家族様からの情報により、希望、意志の把握に努めている。	職員は個々の生活記録や趣味・嗜好・経験等のアセスメント記録を軸に共有し、家族の協力も得て、本人の意向等の把握に努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族、ご本人から生活環境や、どのように暮らしてきたのか情報を細かく伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。その中で現状の把握に努めるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議を行い、日々の気づきや意見等を出し合い、現状の課題に応じた介護計画を作成するよう努めている。	利用者の担当制を取りながら、カンファレンスの定例会等での協議を重ねて、各職位の意向をまとめて個々の介護計画を作成し、家族の理解と承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行ない、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や、その時に生じるニーズに合わせて柔軟に受診や外出等の支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加しており、また定期的にボランティアの方達とも交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の希望される医療機関での医療が受けられるよう支援している。	個々のかかりつけ医を軸に職員が支援し、診療結果を看護師が記録に整理し、職員相互の共有化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員と連絡が取れる体制が整っている。日々の様子や気づき等を看護師へ報告、相談を行い助言を得るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も入居者様の状況を確認しながら、状況を把握し医療相談員や主治医、ご家族と情報交換を行い、今後の方向性や早期退院できるように話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合による指針を策定し、事業所として出来る事を説明している。	重度化や看取りの状態対応については具体的指針を作成し、利用者・家族と約束を交わし、医療機関連携、看取りの具体的支援内容等を明示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、急変時にも速やかに対応できるように備えている。又、勉強会でAEDの使用方法など学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行ない、消防の方にも立ち会ってもらい、意見を頂いている。町内会長さんにも立ち会って頂き、協力体制を得ている。	防災訓練は関係機関・地域関係者の協力を得て定例の想定訓練を実施している。備蓄等も配慮している。	近年想定しがたい災害の発生がみられ、従来にも増して関係機関・特に、地域関係者との役割や相互関係について協議を重ねられるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体介護の際など、入居者様の誇りを損ねる事のないよう、個人を尊重した言葉かけを心掛けています。	職員は相互理解を図るとともに、利用者個々の理解に努め、その誇り、個別性に適う支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前の声掛けで同意を得ている。同意が得られない時は、傾聴し自己決定が行えるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や希望に合わせて支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でカタログから洋服など選び購入して頂いたり、その日の服装をご自分で決められるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作り、食器の後片付け等、ご本人の出来る範囲で手伝って頂いている。	食事の際には個々の心身の状況に合わせて、それぞれが出来ることを促し、また自作の作物を食卓に供するなど楽しいひと時とするよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、栄養のバランスに気を付けている。1日の食事、水分摂取量をチェックし記録している。ご本人の状態に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを促し、誘導、見守りにより行えている。磨き残しがある時は介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の体調や希望に合わせて支援するように努めている。排泄のタイミングやサインを把握して声掛け、誘導する事で失敗の回数を減らす工夫をしている。	個々の日常生活の状況と排泄タイミング等の把握や自立の状況に配慮した下着の選択やトイレでの排泄に努めて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分表を活用し水分量を増やしたり、状態に応じて乳製品を摂取して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日には体調変化や個別の入浴を好む入居者様には小浴など使用している。	入浴は個別と複数で利用できる設備があり窓外の自然の変化を楽しめる。個々の意向に合わせて楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やす為、散歩やカラオケ等行い、夜間はぐっすり眠れるように努めている。居室やホールで休息されている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬一覧表がファイルされている。名前、日付等の確認をし服薬介助を行なっている。変更時や追加処方された場合には、変化を観察、記録し職員間で情報を共有する様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と買い物に行ったり、畑作業を一緒に行ったりと日々の生活を楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、外出の機会が持てるようにしている。ご本人の希望に応じて、ご家族様と連絡を取り、美容室へ出かけて頂いたり出来る限り外出の機会を作れるようにしている。	ホームは自然豊かな環境に恵まれ、周辺や近隣の療育園の公園を散歩できる。ホームの園庭前での外気浴も楽しい。行事や家族との外出などに配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、職員と一緒に外出したり、カタログを見て好みの物を購入することで、喜ばれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方がいる。必要に応じてホームの電話を使用して頂いている。手紙や荷物が届いた時には、直ぐにお渡ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り、展示物をホールに貼り、なかなか外出出来ない方にも、季節を感じて頂ける様に工夫している。	平屋建て2ユニットのつくりで天井も高く、温・湿度管理や採光も良く、ソファ等設備を配置し、利用者の作品や季節の催事の写真を掲出して楽しい居間空間づくりに工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の気分に応じてホールテレビ付近の空間や食卓空間を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのある、家具、写真、本、花を置き安心して生活しやすいように家具、ベットの配置の工夫をしている。	利用者個々の居室は家族の協力も得て、馴染みの家具や思い出多い物を配置するなど、個々の生活に合わせ、本人の居心地良い環境づくりに工夫した支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に移動できるスペースを確保し廊下、トイレ、浴室等手すりを設置している。		